

## 富山県総合計画審議会 第3回活力部会 議事要旨

1 日時：平成29年10月27日（金）15：00～17：00

2 場所：富山県民会館3階 304号室

3 出席委員（五十音順）

高木部会長、川村副部会長、石澤委員、庵委員、梅田委員、小川委員、尾山委員、横井委員、朝日専門委員、石倉専門委員、大谷専門委員、川合専門委員、町野専門委員、松田専門委員、政所専門委員、宮越専門委員、山本専門委員、渡邊専門委員

4 議事

- (1) 基本政策答申検討案（活力）について
- (2) 重点戦略の構成について
- (3) 長期構想について

5 発言要旨

(1) 知事挨拶

本日、県の総合計画審議会の第3回目の活力部会を開催しましたところ、委員の皆様にはお忙しい中、こうしてご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

昨年の12月に新たな10年計画の策定について諮問させていただきました後、これまで審議会の全体会議や、活力、未来、安心、総合の4つの部会で議論を積み重ねてきていただきました。

また今回は、地域委員会のほかに30歳代の若い世代のご意見を伺うということで、青年委員会でも議論していただいたところでございます。

そのほか、県議会議員の皆様との意見交換会、県内4カ所でのタウンミーティング等々も進めてまいりましたし、パブリックコメントも実施してまいりました。

これまでのさまざまなご意見を活かしまして、活力部分の基本方針や重点戦略についての答申検討案を提示させていただきますので、ぜひ委員の皆様には十分ご審議を賜りたいと思います。

活力部会としては今回が最後ということですので、ぜひ、あのときこう言っておけばよかったなということがございませんように、また時間の制約でどうしてもおっしゃり切れなかった点は後ほどご意見をお寄せいただければと思います。

この後は、地域委員会をもう一回県内3カ所で開きまして、あと総合部会、また全体の審議会で議論いただいて、来年の1月か2月早々ぐらいにはぜひ取りまとめて、また来年度の当初予算に早速反映させる、こういう体制で行きたいと思いますので、どうかひとつよろしく願いいたします。

(2) 資料説明（事務局より） 省略

(3) 意見交換

【高木部会長】

それでは、ご意見を賜りたいと思います。

特にある方は挙手をお願いしたいと思います。どなたかございませんか。

【松田専門委員】

富山の場合、今まで冬場が弱いということがあったと思いますけれども、最近、海外も含めてスキーに来られるお客さんが増えてきています。

それで、「富山は冬は飛行機も含めて大丈夫なんですか」と聞かれたりしますけれど、富山の場合はしっかりと除雪体制もちゃんとなっていますよということもお伝えしているのですけれど、それをもっと国内、海外にも宣伝していただきたいなというふうに思います。

【渡邊専門委員】

ご説明どうもありがとうございました。そして、前回申し上げた意見も取り入れていただきまして、感謝申し上げます。

今日は全体的に3つほど気づいたことがあるのですが、それを申し上げたいと思います。

まず1つが、観光に関しては、インバウンド問題なのですが、インバウンドに関してはこの資料の中でもかなり細かく書かれております。それで、私、何回も来るたびに駅を降りますと外国人観光客の方が多いなというふうに思います。しかし、これについてはまだ伸びると思うんですね。国としても何年後かには今の2倍の外国人あるいは3倍というふうになっていますけれども、これからまだ伸びると思います。

それから富山県自体のインバウンドが増えていますが、残念ながらまだ近くに上手がいて、石川県あるいは岐阜県のほうにもっともっと来ている、そんな状況があるかと思っています。ですので、まず1つは、そこからもう少し学べるかなというふうに思います。具体的には、ガイドさんとか、いわゆる観光産業におられる方に対するインバウンド教育というのがあるかと思うんですけれども、競争を経てどこまでできるかわかりませんが、ガイドに限らず富山県内の観光産業に従事される方に対するインバウンド教育、語学もちろんそうですが、計画の中にも書かれていますが、そういったことをさらに推し進めていく可能性があるかと思っています。その中で、隣県の勉強もちょっと入れていくといかなというふうに思います。これが1つ。

2つ目ですが、これはもしかしたら長期（構想）の方になるのかなと思うんですけれども、いわゆる「観光教育」という言葉、なじみがないかと思うんですけど、それが最近ちょっと言われております。これは観光産業従事者ではなくて、県民全てに対して観光が県にどういった効果をもたらすのかということを理解していくような、それがひいてはいわゆるおもてなしの心に通ずる、このような考えに立つんですが、ここで秀でていとよく言われるのが沖縄県です。沖縄県が、小学校だったですかね、総合教育で使える観光教育のテキストをつくっておられまして、お聞きするところでは、小学校の時間、週1回かよくわかりませんが、そういうのをお使いになって、小学校の段階から観光の重要性ということを説かれているんだそうです。そういうふうに行っていると、そういう子どもたちが大きくなったときに、遠方から来てくださるお客様は大切にしようというような考えになるのではないかなというふうに思います。そういうわけで、観光教育を早い段階からやっていただくのも手かなと思います。

3つ目ですが、これは逆説的なことを申し上げるのですが、長期的に見ますと、今の世

界の観光を通して、いわゆる観光客が多過ぎることによる弊害、オーバーツーリズムという言葉が使われるのですが、それが少しずつ出てきています。日本でインバウンドがこれだけ急激に増えますから、観光客が多いために、例えば市民、県民の生活がオーバーに言えば脅かされているということが出てきているそうです。

富山県の場合は、もちろん片方ではもっともっと来てくださいという感じはあるのですが、観光客が集中的に来る場合に対する対策をどこかで考え始めていいと思います。具体的には、クルーズと大型コンベンションだと思うんですね。よく他で言われているのは、クルーズが来ると町中のコンビニのパンがなくなってしまうとか、そういうようなことが出てきますので、一時の過剰な観光客に対する対策というものを今から少し考えていくことも大切なのではないかなというふうに思います。

#### 【高木部会長】

ありがとうございました。

先般、北日本新聞のセミナーで一緒のことを言っていました。10万トン以上の大型クルーズ船というのは、浚渫（しゅんせつ）して引っ張ってくる割に1人当たりの客消費単価が7,000円で、クイーン・エリザベスとか10万トン以下で5万トン以上ぐらいの船は1人10万円ぐらい使うと。だから、単価掛けるあれを考えると云々と言っていました。大変参考になりました。

#### 【石澤委員】

現在、日本の総企業社数は382万社、その中で小規模企業というのは85%の325万社ほどあるんですね。まさに小規模企業は日本経済の下支えをしている活力の源泉であると思っております。

しかし今、この活力の源泉である小規模企業が危機に陥っている。それはどんどん廃業が続いてきておるということであります。

その1つは深刻な人手不足ですし、もう1つは後継者難だろうと思っております。人員募集しても誰も来てくれない。仕方がないから既存の人員でやりくりをすると、つい無理が来て残業などになって厳しくなってくる。これなんかも実は廃業の原因であります。

その次に、経営者の高齢化が急激に進んでいる。国の調査によりますと、経営者の平均年齢は、20年前には47歳でありました。その10年後、つまり今から10年前は56歳、そしてさらに10年後の現在は66歳です。引退年齢はおおよそ70歳前後と言われております。そして、今から5年から10年後にかけて引退する小規模企業の経営者の数は245万人、全体の企業の約6割であります。そして、その半数の127万社はまだ後継者を決めていない。そして、60歳以上の経営者は7割が自分の代で事業をやめると答えている。こういうような状況でありますから、今から5年、10年後には後継者難で廃業が急増して一大廃業時代が来るのではないかと、こういうことを言われているわけでありまして。

その原因の1つは事業承継であります。長年汗水たらして一生懸命働いて何とか財産を蓄えて、しかし相続税で根こそぎ取っていかれる。こんなものやっておれるかというような気持ちが出てまいりますし、後継者になる人も借金までして払わなければならぬ、そういうことでは跡継ぎできない、こういうふうになってまいりますので、また後継者がいない事業者はこの機会にやめようというふうになってくるわけでありまして。しかも、この経営者も、その多くは黒字の企業が多いんですね。まことにもったいないし残念なことだと思

います。もちろん相続税の支払猶予制度もありますけれども、これはどうも使い勝手が悪い。あまり評判がよくありません。この間、二階幹事長さんにこのこととお話ししましたら、わかったと、必ず抜本的な改正をやりたいということですから、国もこのことについては取り組んでくると思いますが、県も現在、事業引継ぎ支援センターで対応しておられますけれども、この1年間で成立したのはわずか1件だと聞いております。これでは焼け石に水ではないか。もっとも全国での成立件数は800件、廃業予定者が127万あるわけですから、これも焼け石に水であります。

したがって、今度県が後継者人材バンクをお作りになるとここに載っておりますけれども、どのように取り組まれるのか。1名では少ないのではないか。もっと専門的な能力のある人で、単に相談ではなくて、信託できる、あるいはマッチングもできる、そういう人が必要なのではないか。また、金融機関も努力しておられるので、こういう関係機関ともっと連携を強めるべきではないか。商工会もやっていますが、能力が不足でありますので、そういう指導もしなければならぬのではないか。したがって、この人材バンクには大変期待をしておるし、本腰を入れて覚悟してやってもらいたいと思っております。

もしうまくできれば、この活力がきっと強固になるものと思っております。知事さんに期待しております。

#### 【高木部会長】

これは全く同感で、実は日本商工会議所でも、今の相続猶予、これではだめだ、延期だと言っている。私はそれで、この前、中部経済産業局長さんなどがおいでになった北経連で「農業と一緒にしてくれ」と言ったところなんです。だから、諸外国と比べていたらだめなんです。わかりやすく言うと、うまくいっているところは相続税で悩んで、息子さんも娘さんもこんなもんやっとなんと。うまくいっていないところは当然倒産あるいは廃業と、こういう状況になっていることは事実なんです。ですから、多分いずれ抜本的に、三村会頭も動くと言っていました。大変私も期待しております。

#### 【石澤委員】

これからやれば、おそらく中小企業も本当に喜ぶと思います。いっぺんで富山県に活力が出ると思います。

#### 【高木部会長】

全国的にもね。ありがとうございます。

#### 【庵委員】

うまく書いてある中で、私がちょっと心配したのは、雇用の確保という点で、少しずつ成果が出ているスピードと、実際の企業の実感がうまくまだつながっていないのが現実ということで、こういう形で書いていただいたところについてはぜひ強力に私どもも応援したいと思いますし、やらせていただきたいと思っております。

それと、今ほど石澤委員がおっしゃいましたが、私どもは企業の新陳代謝だと思っております。よりM&Aに理解をしていただける企業主が増えてこない、やはり企業というのは継続性が一番大事だと思っております。私ども金融機関の力のなさかもしれませんけれども、なかなか胸襟を開いていただけるタイミングまで行かない。逆に言えば、お話を

聞けば、私どももいろいろな機関を使ってお手伝いできるところが非常に多いと思いますので、ぜひ事業承継のセミナーだとか組合といったもののセミナーも、私どもだと何となく信用できないというお客様が多いのであれば、県の力を借りてやるのも1つ成果に結びつくんじゃないかというふうに思います。

#### 【梅田委員】

これだけすごく網羅してあるから何も言わなくていいのでしょうかけれども、現実には、今の観光という問題でも、富山駅前が今潤っている、人の動きとか、すごく富山駅前がいいですね。でもやはり、先ほどからおっしゃるような後継者不足で、本当の意味で地元のおいしいものを食べさせていただけるところがだんだん後継者不足のため少なくなっているし、私が小さい頃の繁華街だった西町、総曲輪、中央通り、堤町もそうですし、千石町とかでは若い人が頑張ってくれているんですけども、やはり大手のところに吸収されている形で、何か富山らしいものがだんだん薄れているのはちょっと残念で、それは高岡もわかりでないでしょうか。

そうすると、県庁所在地の富山市、そして高岡市でも、何か郊外の離れたところが盛んになっていて、それは一部の観光、旅行会社の人があるところへ連れて行っているというか、そういうのはかなり充実してきたんですけど、だんだん高齢社会になりますし、小さな子どもも大事にするとなると、富山は今、美術館もああいう子どもも楽しめるすばらしいものになったんですが、東京では並んで待つというのは当たり前なんですけど、オムライスがすごくおいしいところという話を聞いて、ずっと1つのお店の前にただ並んで待つ、何も食べられなくて、じゃ、その時間帯にどこへ行くのって思うと、お休みの日なのに富山のまちのお店が休んでいる。それはちょっと、これから何か心配だなという懸念をしております。

#### 【小川委員】

この前、新しく富大の副学長になられました中川先生のお話を聞く機会がございまして、ここにあいの風とやま鉄道の利便性の向上という項目もございまして見ておりましたが、中川先生のお話では、富山ライトレールとか、あるいは福井のえちぜん鉄道とかは、運行ダイヤを何々駅では何分と決めて、例えば富山駅なら00分発、次だったら03分発、必ず3分になったら電車が来るというダイヤに変えていったら、非常に使い勝手がよくなって利用者がどんどん増えていった。ライトレールもそうなのだそうです。

それは人がいるからだろうという話で言いますと、それは確かにそうなんですけども、城端線や氷見線は、皆さんごらんいただいたらすぐわかりますけども、ダイヤが本当にばらばらで、高岡駅を出る時間、城端に着く時間、城端を出る時間は、全部違うんですね。氷見線もそうです。利用人数がどんどん減っている。

それは人が少ないからだろうとおっしゃるかもしれませんが、朝日町のあさひまちバスというのは中川先生が京大時代に協力して工夫をしたバスでありますけども、このまちバスも、最初は、あいの風とやま鉄道のダイヤに合わせて泊駅着の5分後にバスが出るようなダイヤを組んでいたときは全然だめだったんですが、今はそれに関係なく、時間を決めて、例えば泊駅なら0分発、次なら5分発というようにダイヤを決めると、ずっとそれから利用者が伸びて、6,000人の町ですけども、5年連続、58カ月連続で利用者が増加して19万人と、これはダイヤを定時にしただけなんだという話でございました。

それで言うと、あいの風とやま鉄道の時間は、北陸新幹線の接続見直しでダイヤを改正したという話もありますけども、これは逆で、JRの方は全国的なので簡単にできませんので、JRは今のままだとすると、あいの風とやま鉄道のほうでそれを決めないと、JRの接続ということを行っているようでは同じことになるので、新幹線が何時に来ようが富山駅を出るのは0分なんだというふうに決めてしまうと、それは隣の石川県の鉄道もあるので簡単ではありませんけど、少なくともそういうふうな研究をしてみたらどうかなと思います。せっかく今中川先生が来られたことなので、あいの風とやま鉄道の利用促進を図れるようなダイヤの研究みたいなことをやられたらマイルール意識の醸成ということにもつながっていくんだらうなというふうに思いますけども、そういうことも盛り込めたらいいかなということをお願いしてご紹介したいと思います。

### 【尾山委員】

先日、東京で富山県の物産販売をしてきましたけれども、私は漁業団体から行ったものですから、高志の紅ガニ、私たちはベニズワイガニと言っていますけれども、そのカニを持って1箱5,000円で売ってきたんです。箱の中に2匹入っていたんですが、じきに売れちゃってなくなったら、まだ買いたいという人に「何でこんな安く売っているんですか」と聞かれたんです。だから、高志の紅ガニ、ベニズワイガニも、漁業者だけでPRしていてもそんなに効果はないんですね。だけど、こうして県が一生懸命頑張ってるPRしてくださったおかげで、やっぱり皆さん、ベニズワイガニのことをよく知っていらして、「こんなおいしいカニ、こんな安く売っていいんですか」と聞かれてとってもうれしかったです。

それから、10月の10日、11日と京都に会議があって行ってきましたら、京都のホテルの方が、「富山から来ていらっしゃるんですけど、富山に外国人の観光客はいっぱい来いますか」と聞かれたんです。私はあまり外国人の観光客を見たことがないものから、「そんなに富山にたくさん来ていませんよ」と言ったら、何かこの秋になってから京都にたくさん外国の方が来ていらして、日本人の方が県外からいらしても泊めてあげられるお部屋がないくらい外国の方がいっぱい来ているんですという話が出たんです。

先ほど渡邊委員がおっしゃいましたように、私は用事があったものですから朝早くに京都から帰ろうと思って駅に来ましたら、駅の中に1軒あるコンビニの前にずらっと外国の方が並んでいて、皆さん、朝食をホテルで食べないでいらっしゃるのか、並んでパンとコーヒーを買って、駅で食べていらっしゃるんですね。東京のホテルへ行っても、8時半か9時ぐらいに出でいかれる人を見ていると、朝食を食べないで、コンビニでパンとかおにぎりを買ってバスに乗って、ほとんど朝食を食べないで出でいかれるんですね。ですから、そういう現象が出ているのかなとさっき渡邊委員のお話を聞いて思いました。

それから、皆さん知っていらっしゃると思うんですけど、私の家の裏の内川が日本のベニスですねと言われたことがあるんです。それで、私、日本のベニスじゃなくて富山県のベニスですって言ったんです。そうすると、富山県じゃなくて新湊のベニスでしょうと言われたくらいに、新湊の海から入ってきている内川なんですけど、そこがとってもよいらしくて、土日になると観光客の人がとってもたくさん散策していらっしゃるんです。ですから、もっといろんなことでPRしながら県外の人に来ていただきたいなと思っているんですけど、ちょっと休んでいこうかなというお店がないものから、何かそういうことを県や市で仕掛けていただければもっと観光客の方が来てくれるんじゃないかなとも思っております。

### 【川村委員】

第4次産業革命の対応ということですが、この中では、成長産業の育成とかいろんな面、働き方改革とかがありますけれども、私はもうちょっと大きな位置づけで、というのは、例えばこのいろんな施策を、新交通にしても何にしても、ビッグデータとかIoTとかAIとかということも結びつけてやっていかなければならない。そうすると、このところをどうやっていくか。このロードマップも含めて、しっかりと早くやっていかなきゃならないと思います。

この間私も行って来たんですが、コンソーシアムをつくるということで知事が発表しました。私は、あまりにも早いのでびっくりしたんですが、知事がいつもモットーにしているスピードですね。今度はあれの中でどういうふうに進めるか、例えばいろいろプラットフォームスクエアとかいろいろやっていますし、あと、そういうソフトとか蓄積しているところとどう結びつけていくとか、そういうふうなこともコンソーシアムの中につくるのかとか、そういうような機能をコンソーシアムに持たせるのかそうでないのかというようなロードマップを早く決めて進めていけばいいと思います。これにより、元気とやまの推進についてもものすごいスピードが上がると思いますね。

もう1つは健康寿命であります。これなども、やはりビッグデータから分析した上で、対策とかを組み合わせしていく、何かそういった導入のプロセスとかロードマップを早く作って進めていく、ここが一番大事だと思います。これが一番重要なことなので、一番先には書いてありますけれども、それをひとつよろしくお願ひしたいと思います。

### 【横井委員】

今回議論させていただき内容の資料を拝読させていただき率直な感想を申し上げるならば、以前の内容よりもとてもわかりやすく踏み込んだ内容になっており、随所で県民目線で県民の立場に立って考えられているということが感じられ、大変うれしく、未来が明るく感じました。

長期構想については、20年から30年後のビジョンということで、夢構想なので、将来に希望が持てるような内容になっていますが、私事なのですが、現在3人目の子どもの親となる一県民としては、この構想の中で、子どもが学び、そして大人になり富山で活躍してくれることを願っております。

この夢構想の中に追加すべき視点を考えるならば、県民に提案する夢構想というよりは、県民が一緒になってつくっていく、県民とともにある夢構想という部分をもっと感じられるような内容のほうが具体的でいいのではないかと思います。

毎回お話しさせていただいている「富山県といえばこれ」とわかるような、県としてきらりと光る特徴が感じられるようなオンリーワンの夢構想で、例えば「未来に羽ばたく7つの夢づくり」を「未来に羽ばたく県民のための7つの夢づくり」とするなど、県としての夢構想は県民あつての夢構想であり、一緒に未来を明るく希望の持てるものにしていこうと取り組んでいけるような夢構想がいいように感じました。

次に、活力部会に参加させていただき委員として最近感じたことなのですが、農林水産業の振興の意欲ある若い担い手の育成の部分ですが、「富富富」のお米を使って小学生を中心とした水田での田植え、稲刈り体験を行うというものがあると、将来、農業に興味を持つ子が多くなるのではないかと考えました。

今年、子どもと一緒に、小学校の社会福祉協議会の方々が主催するサツマイモづくりを苗を植えるところから収穫まで参加させていただきました。毎年参加している子どももいて、夏の暑い中草むしりを頑張り、芋掘りの日は本当にうれしそうに、泥んこになりながらも収穫の喜びを体で感じていました。

私の実家がお米をつくっており、幼いころから手伝いをしているので、農業に対しては食べていく上で必要なもの、大切なものだと思ってきました。幼いころに田植えや稲刈りなどの経験がある子どもが多くいれば、将来、若い人材の中に農業に興味を持ち飛び込んでくる人も増えるのではないのでしょうか。

また、「富富富」のお米の件で新聞記事を拝読し提案なのですが、今年収穫された38トンのうち半分が限定販売、残りは味の評価を得るため全国のお米屋さんへ送るサンプルなどに使われるとありますが、これのほんの一部を富山県の県政モニターに送りアンケートや評価を得るといえるのでしょうか。約200名の県政モニターの方々が、県のことを考え県のために活動しております。その中には農家の方もいらっしゃるでしょうし、毎年他県からお米を購入していらっしゃる方もいたり、パンよりもお米のほうが好きという方もいらっしゃるはずで、そのような方から生の意見を伺うのはとても参考になると思うので、ぜひご検討いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

#### 【高木部会長】

ありがとうございます。

それでは、一旦知事からコメントをお願いします。

#### 【石井知事】

皆さんそれぞれに大変参考になるような立派なご意見をいただいて、ありがとうございます。

冬場の観光が弱いというのは従来からの課題ですけれども、庄川温泉郷の冬の魅力とか、また立山・黒部についても、課題は多いですけれども検討を始めておまして、またPRの点で努力していきたいと思ひます。

渡邊委員のおっしゃった観光教育ですね。これは先生にもお世話になってとやま観光未来創造塾も始めていますけれども、もう少し若い時代から、例えば学校教育の中でも少し位置づけるようなこともやってもいいのかなと確かに思ひます。

それから、クルーズ船の話がちょっとありましたが、確かに10万トンをはるかに超えるような船は、どちらかというとも1人当たりの客単価も非常に低くて、中規模のところのほうがかえっていいんだというご指摘は確かにそのとおりに思ひます。いろいろ今知恵を凝らしていると思ひますが、またお時間をいただければと思ひます。

何人もの方から、やっぱり事業承継が大事、特に経営者が高齢化して、これから非常に廃業が増えるんじゃないかというのは私も全くそのとおりに思ひます。それで、今年は、今ちょうど調査中ですが、当初予算にも入っていたのですが、9月に改めて補正予算も計上して、県内で今60歳以上の経営者について悉皆的な調査をしておまして、皆さんが事業の承継についてどう考えておられるか、またそれをやるときに何が障害になって、どういう課題があるか、またどういうサポートがあればうまくいくかなどといった点もしっかり確認をしたいと思ひます。また、お話しのように、後継者の人材バンクですとか事業承継ネットワークを本年度、さらに来年度にかけてどんどん進めていきたいと思

います。

二階幹事長のお話とか三村先生のお話も出ました。当然、全国でも同じ問題意識の方がおられると思いますが、そうした国の政策も、経産省にももちろん別途いろいろお願いしていますけれども、連携しながらしっかり取り組んでまいります。

庵委員が言われた金融機関は、もちろん信用はあると思うのですが、しっかりサポートしてまいります。

それから、駅前は大変人通りが多くなっているけれども、いわゆる西町、中央通り、堤町、千石町、そういうお名前も出ました。私もあそこの住人だった時期がありますので、おっしゃることは大変よくわかります。12年前ですか、当時、二階先生は経済産業大臣、北側さんが国交大臣で中心市街地活性化法の改正をしてもらったり、国の予算措置もしてもらって、随分と中心市街地の活性化、実際に富山市内は特に進んだと思いますが、それでもおっしゃるような課題があるわけで、これは全国的な問題です。中心市街地の活性化はもちろんこれからもしっかり進めますけれども、同時に、どうしても人口減少時代なので、それから人間はなるべく交通の利便性が高いところはあまり歩かないで済むところとって、全国的にどこでも駅前に重心が必ず移るそうですね。もっと厳しいところは、駅前自体がそもそも寂れて都市全体が衰退している。幸い富山県は富山市を中心にまだ踏みとどまっていると思うのですが、これからも工夫をしまして、一方で、確かにアウトレットモールにはいい点と課題もあるんですが、かといってああいうものを誘致しなければいよいよだめになるということもあって、この点はまたよく考えていきたいと思います。

小川委員がおっしゃったパターンダイヤ（パルスタイムテーブル）は、中川先生がかねてからおっしゃっているのですが、これはよく勉強しております。一度そういう議論もあって、相当検討したのですが、本当におっしゃるように増えるのか、どうもそういうふうには思えないという人が圧倒的に多かったのですが、朝日町のいろいろなお話を聞きましたので、もう少しよく考えてみたいと思います。

尾山委員さんにはいつも高志の紅ガニとかいろいろやっていただいております。とにかく大分再評価されつつありますが、まだ富山県のベニズワイガニは越前ガニの6分の1ぐらいの単価であり、味はほとんど差がないと私は思っているものですから、何でこんな安いのかという話になるので、これはぜひ漁業、水産業界と連携して努力してまいりたいと思います。

また、内川については、ようやく民間の皆さんで少し一息つけるような場所もできてきているはずなのですが、まだまだ足りないんじゃないかと思えます。これは射水市さんにもしっかり頑張ってもらいたいようなことも含めて努力してまいります。

川村委員がおっしゃったように、第4次産業革命にはスピードが大事だというのはそのとおりで、ロードマップをつくって、また企業の皆さんと連携して進めてまいります。

特に今、地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議なども進めていただいているのですが、一時期、ある政党の代表の方が23区の学生を抑制するのは反対だど。あの方はかなり公約、ご演説の内容は立派なのだけれど、割に総論的なことが多かったというのが1つ課題だったんですが、具体的に言われたのはこれだけなんです。私は心配して、全国知事会でお話しして理解してもらったはずと思っておりましたらああいう結果になったので、これで安心して施策が進められるなと思っております。

それから、横井委員がおっしゃった夢構想は、県民にとっての夢構想、県民とともに実現していく夢構想となりますように努力してまいりたいと思います。

また、農業も大変大事なことでありますので、農業未来カレッジなどいろんなことをやっていますけれども、また努力してまいります。「富富富」のお話は各論になりますが、今のご指摘も踏まえてうまく工夫できるのか考えてみたいと思います。プロの方に食べてもらうということはどうしてもやらなければいけないと思いますが、量が限られているものですから、またよく検討させていただきたいと思います。

#### 【高木部会長】

ありがとうございました。

それでは引き続きお願いしたいと思います。

#### 【朝日専門委員】

農業に関しては、この政策目標はまことにこのとおりだと思います。

稲作に関しては、近年の一等米比率の向上や新品種「富富富」の栽培など明るい話題が多いので、これからも品質重視、消費者に喜ばれる米づくりを目指していかなければならないなど実感しています。横井委員もおっしゃいましたが、「富富富」の米はまだ栽培が限られているので、富山県民みんなの口にはなかなか入らないんですけれども、やはり富山のコシヒカリと肩を並べるためには、最初の販路拡大やPRが重要かと思えます。それに力を入れていただいて、高品質の米をつくるように目指していかなければいけないんじゃないかなと思っています。

野菜に関して、一億円産地づくりが大分根付いてきたように思われますけれども、やはり大規模産地の育成に当たっては、栽培技術の伝授や販路拡大が不可欠ではないかと思えます。私のいる砺波市では、タマネギ生産の栽培技術がある程度確立してきたことや収入の面でも安定してきたことから、法人組織のほうでつくってみようというところが増えてきて面積も確実に増えています。やはりもうかるということが一番大事なのではないかと思えます。

各方面でも懸念されていますように、農業でも労働人口の減少や高齢化がますます進んでいます。これからは、ドローンの活用とかパソコンの操作による管理などハイテク技術の活用も大事なのではないかなと思われますので、今後はそちらのほうにも何とか力を入れていただくというか、やはり指導のほうもお願いして、若い人に魅力あふれる農業というイメージを植えつけるという方向に持っていければいいかなと思っています。

#### 【石倉専門委員】

「未来調和型の県づくり」戦略のところですが、公共インフラの災害対策とか更新投資について、災害対策については、気候変動でもっとこれから充実しなければいけないとか、老朽化については更新投資がますます必要になってくると思います。

そこで、莫大な公費負担が出てくるわけですが、公民連携みたいな観点も出てくるんじゃないかと思えます。必ずしも万能ではありませんが、民間のお金とか知恵を担保に工夫して使うということで、公民連携の手法、もともとPPPとかとPFIということで導入されて、政府も最近さらにそのプログラムを充実してきたところでもあります。例えばコンセッションであるとかお聞きになったかもしれません。道路や橋のみならず、上下水道であるとか空港であるとか、いろんな物件を対象にそういうものを取り入れるところも出てきています。県とか自治体とかそれぞれ違うところが主体でやっているものもあり

ますけども、それも、県の部分もあれば、あと県と市町村が一緒になるものがあったり、また市町村同士が一緒になるようなところもリードすることで、そうした手法も取り入れながら整備を充実していくということも必要なんじゃないかなと思います。

#### 【大谷専門委員】

富山県のものづくり強化の観点で言いますと、この中に全て現状課題の抽出から施策まで書いてあると思います。ただ、これをきちっと継続してやり遂げることが大事だというふうには私は思っています、その中で特にやはり足元でも長期的に見ても、富山県のものづくりを支えるものづくり人材の確保・育成というのは非常に大きなポイントになってくると思います。

当然、ものづくり企業そのものが生産性を向上していくというのは自ら果たしていかなければいけない。そうすると、先ほど川村委員からもありましたように、例えばI o T活用というのは今県が中心になって進めていただいています。このI o T活用も、一番導入すべき中小企業の方々にやっぱりこの効果というものを知ってもらって導入していくことが大事だというふうに思いますので、今、I o T推進コンソーシアムなんかで、県の商工労働部が中心になって、ただI o Tを導入するという話じゃなくて、やっぱり中堅、中小が導入してメリットを感じられる、いわゆる実証事例を積み重ねて、まず自助努力で生産性を高めるということが1つあると思いますけれども、もう1つは、県内定着あるいは県外からの県内への呼び込みです。これは今いろんな取り組みがされておりますけれども、この生産性向上のいわゆる県内定着、県内への呼び込みということは即効性がすぐあるものではないと私は思っています、やはりこれこそが産学官が一体となって継続してステップ・バイ・ステップの取組みで進めていくことが一番重要なのではなからうかと思えます。

あと、長期構想の中で、基本的な考え方の中で、基本は変えずに環境変化を踏まえた内容のアップデートという説明がありましたけれども、私はこれであるべきだと思っていて、やはり一回決めたからといって、事業環境とかいろんな世の中の環境が変われば、それに合わせて柔軟性を持つことが大事なので、一回決めると硬直的になるケースというのが世の中よくあるんですけれども、やはりここは絶えず柔軟性を持って変えていくという姿勢があわせて必要なんじゃないかなと思います。

#### 【川合専門委員】

とやま夢構想の項目の7つを見まして、特に「食と農の王国」、それから7番目の「豊かな海と水」のところで、ここに1つ大事なキーワードとしまして、富山というのはやっぱり水資源が重要で、いわゆる森、里、川、海の循環という、「循環」という1つの言葉が必要じゃないかなと思います。これが食、農につながりますし、水という、富山の自然がつくった環境インフラというか、この水資源の貴重性というか、これは世界的に見ても、水があったからこそ富山の全ての産業基盤もここにあるわけですし、この森、里、川、海の循環、「循環」という言葉をこの中の環境トプランナーにも循環というものがありますし、その辺のキーワードで少し磨きをかけていただければ、何かすごくイメージがいいんじゃないかなというふうに思います。

#### 【町野専門委員】

回を重ねるごとにだんだんよくなってきて、もう紙の上を書くのはこれでいいんじ

やないかなというふうに思っております。

今、世の中は非常に好景気でございます、アメリカもヨーロッパも景気がいいし日本もいいし、そこへ中国が落ち込んでいたのが上がってきて非常に忙しくなっている。輸出も伸びて、日本の黒字は過去最高に迫る勢いでございます。

ある会社で、この好景気の中ですごい納期遅れが起きていまして、日本で作っているものは非常に納期が遅れていて、普通は1週間、2週間で対応できるのが3カ月ぐらい納期がかかる、ところが、中国工場で作っているものはほとんど納期遅れが起きていない。なぜかという、中国工場は残業ができるし土日でも徹底して仕事ができる。日本の工場は、この間からずっと大騒ぎしているものの影響もあって、時間外労働が規制されてできなくなっている。だから、いわゆる生産の瞬発力がないということで大変な納期遅れが起きている。

これを解決するためには、やっぱりロボット、IoTなんですよ。ですから、この資料の中にそういうことが入っているのですが、ただ書いていただけではだめですので、今日本では世界に冠たるロボットメーカーが3社ありまして、1つは山梨県、1つは大分県、もう1つは富山県にあるわけでございます。

IoTコンソーシアムを県で組織してございますけれども、そういうものをつくると、富山県というのはいろんな産業の会社があって非常にいいコンソーシアムができ上がる。しかも県が非常にコンパクトで集まりやすい、人が交流しやすい、そういう好条件がある。山梨はまずだめです。大分も少しやれるところなんですけど、環境的に言ってそういうものができるのは富山か愛知、せいぜい静岡。でも、静岡も真っ二つに割れていますのでなかなか難しい。そうしたら愛知県と富山県しかそういうところがないわけで、そこをやっぱり利用して、富山県のロボット、IoTを、日本で言えば、それだったら富山県だというふうなところまで持っていくような構想にぜひしなきゃいけないんじゃないかなというふうに思います。

最後に、とにかく紙に書いたものはこれでいいわけなんですけど、どうやって実現していくかという意味において、ここにいらっしゃる委員の方々が、じゃ、自分は何かをしようというふうに思っているかどうか。県がやればいいと、県にやってほしいということだけになっていないのかどうか。先ほどもありましたように、県民がやる。県はやっぱりディレクターであって、タレントは県民であり県の企業なんですよ。そういうところをひとつしっかりやっていただいて、私もロボットに関して何かやっていきたいなというふうに思っていますけれども、そういうようなことでこの後進めていければこの構想は大成功するんじゃないかと思えます。

#### 【松田専門委員】

インバウンドが最近非常に増えていますが、大幅に個人客が、中国なんかは特に個人客が大幅に増えてきておりますので、個人客の誘致の対応、それと現地での営業、宣伝等をもっとしっかりやってもらえたらなというふうに思います。

あと、長野、高山、金沢というのは、日本の地方都市で今海外の人にもものすごく人気があります。でも、その真ん中が富山なので、富山空港からいかに近いかということ連携して宣伝できるように、もっとやっていただきたいなというふうに思います。

#### 【政所専門委員】

私からは、若者の雇用対策の問題と高齢化対策の2つに触れたいと思います。

今若い人たちが地元を離れてしまう要因の1つが、スキルアップできるような仕事が地元でなかなか見つからないとよく聞きます。勉強した分、成長した分だけ評価される仕事がなかなか地元で見つからない。

高齢化の問題が、いよいよ団塊の世代が3,500万人とか4,000万人、どっと今高齢化というところに入っているんですけど、この人たちの持っている自由時間というのは、やっぱり60歳を過ぎると、大体元気な状態で90歳ぐらいまで頑張れる層が増えてくるんですね。この人たちが一番困っているのが、生活時間が1日10時間、これぐらいが365日で30年間続くと、10万時間ぐらい暇でしょうがないんですね。

今、東京などで起きているのは社会人大学ということで、大学も学生が減ってきていますので、例えば立教大学は年間30万円払って1,000人ぐらいの学生が毎年受けているんですね。地方大学でも空いたキャンパスとか学生さんたちというのをうまく活かしていくために、地方大学の空いているキャンパスなんかを寮にしたりして、もう一度社会人大学として復活させているんですね。

やっぱり学びたい人というのは非常に増えていまして、特に学生運動なんかで勉強できなかった方たちの塊とか、それからあんまり勉強しなかった人々がもう一回勉強したいと、すごく欲求が高いんです。この人たちはお金もありますし時間もあるので、私から提案したいのは、この元気な人たちがもう一度学び直すということで考えると、富山というのはそもそも学ぶ、ノーベル賞とか薬都とかブランドがあるので、そういうものを活かして、「富山で死ぬまで学びましょう」みたいなことを提案できたらいいなと思います。

そういう中で、実はその方たちが富山に行ったり来たりすると、若者たちがそれをもてなしたり、さまざまに教えたりサポートしたり活用したりして、スキルアップしながら若者の雇用先も随分増えるんですね。ですから、このあたりを戦略ということで1つの事例としてご提案できたらなと思います。

特に富山はものづくりで北陸の要衝にポイントが立っていますので、過去に支店長で来ていた方とか支店に来ていた転勤族の方、この人たちもこの10万時間の使い方悩んでいらっしゃると思いますので、OBたちをもう一度富山に誘客しませんかということで、これは大学のライセンスは別として、知事名で「富山県立大学修了証」というような紙代だけ県の予算で出していただければいいので、修了証だけ出していただくということでもえらい誉れがあると思うので、ご褒美は簡単なものでいいですけど、ぜひ地方大学の活性化を含めてよろしくお願ひしたいと思います。

#### 【宮越専門委員】

今日が最後ということですがけれども、これまでの部会での議論あるいはタウンミーティングあるいはパブリックコメントでのご意見が十分反映されて仕上がっている計画案だと考えております。

あえて一言発言させていただくとすれば、やはり活力ある県づくりということにつきましては、先ほどそれぞれの委員の皆さんからご発言があったように、やっぱり活力ある元気な企業と人が不可欠だろうというふうに思っています。

先ほど石澤委員からもありましたけれども、県と国で連携されていますシニア人材バンクの活用だとか、あるいは今あるシニア人材バンクがそのままいいわけではなくて、もっと多様な目的とかニーズに合った制度なり中身の充実というものもこれからはもっと求め

られてくるのではないかというふうに思っていますので、そのあたりもよろしくお願ひしたいと思ひます。

加えて、それぞれの立場の皆さんからありましたように、事業の存続と、職人技の技術継承というものも、これからもっと深刻に受けとめていかなければならない1つの課題だろうと思ひています。

ものづくりの前に人づくりだろうということも一方ではあるというふうに思ひます。現在、有効求人倍率1.85という数字になっているみたいですが、これは一方で、人手不足が慢性化しているとも見えるのではないかというふうに思ひています。

この計画は大変多岐にわたっておりますけれども、複数の計画を達成する中での相乗効果も求められているということでもありますので、太い太串で部局横断型の連携強化を図っていただきたいということをお願いしてご意見にかえさせていただきます。

### 【高木部会長】

ありがとうございました。それでは、私から一言だけ。

冒頭で申し上げましたけれども、パブリックコメント、タウンミーティング、そして県議会の先生方、それから各委員会での意見をうまく取り込んでおり、あとは柔軟性とロードマップだと思います。この計画そのものは100点に近いものだと思いますが、先ほど町野委員も言われましたが、じゃ、我々県民一人ひとりがどうこれに参画して、そして一緒に盛り上げていくか、このすばらしいプランを実行していくかということになりますと、イグノーベルじゃないんですけど、これをやるのにいいアイデアを出したり汗をかいた人を県はぜひ表彰していただきたい。結局、立派なものもあり、それに対して予算はつくんですが、県民は言われたままやるわけじゃなくて、これにプラスアルファしてアイデアを出して、そしてこれをやっていくということが一番大事だと思います。

ですから、「野に遺賢あり」で、民間の意見に対して大いに表彰なりして、さっき出た長野での宣伝といったことは、観光協会ですらぜひやってほしいと思うんですけど、じゃ、その予算をどうやって集めるか、どうやって人を出すか、何を宣伝するか、皆さんおっしゃった中でやっぱりいろいろあると思うんですね。そういうものを酌み上げるからくりをお願いしたいと思ひます。

もう1つ言いますと、都下のある市なんですけど、町内会に出て何と草むしりしたらポイントカードがもらえるんですね。逆に言うと、そういうものを出さないと誰も参画しないんです。班長とか町内会長が回ってきそうだったら町内会を脱退するんです。それでは、ごみはどこに捨てに行くかと思ったら、車で朝早くどこか隣の町へ捨てに行く。もうそれで総務省も困って、こんなポイントカードをつくっているんですよ。

そんな時代は富山には多分来ないと思ひますけど、そんなお金を払わなくてもいいので、ぜひ褒めてあげていただきたいと思ひます。

以上でございます。

それでは、知事さんからコメントをお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

### 【石井知事】

大変いいご意見をたくさんいただいて、ありがとうございます。

最初に、朝日委員さんが言われた、やっぱり農業はこれから収益力が高いということが大事で、タマネギが本当にすばらしい成果を上げていただきましたが、私が一番感動した

のは、あれは8、9年前からされて、最初の1、2年は赤字で、組合長さんなども随分と悩まれた時期があったと思います。しかし最近、収益がよくて9億円、今年もひよっとしたら5億前後行くのかもしれないですね。それと、皆さんご存じかもしれませんが、コシヒカリは産地交付金などを入れても収益力がせいぜい10アール当たり3万円なんです。となみ野のタマネギは10アール当たり21万円なんです。この違い。私は本当にすばらしく頑張られたと思うし、全面的にバックアップしたいと思います。富山県の農業を変えていきたいと、こういうように思っていますので、ぜひ頑張らしましょう。

石倉委員が言われた公民連携は大事なことです、また心がけてまいります。

大谷委員が言われたものづくり人材の確保、それからIoTの活用は、やはり実証事例が大事だということで、大分やきもきしていたんですが、最近、商工会議所の皆さんにはちょっとご披露したのですが、ようやく具体的な中堅企業、中小企業が3件ぐらい出てきていまして、これはさすがに補助制度なり無利子貸付金の制度をつくったかいがあったなと思っておりますし、これをもっともっと普及させていきたい。おっしゃるようにスピードが大事ですから、努力してまいります。

それから、もちろん一度決めたら決めたあまり硬直化するというのはよくないわけで、フレキシブルにやっていきたい。この計画そのものも10年計画ですが、5年に一度は必ず見直す。それだけではなくて、臨機応変に基本をしっかり維持しながら柔軟な対応をしていきたいと思っております。

また、町野委員がおっしゃったように、これから人手不足、日本全体が働き方改革という議論もありますから、納期遅れとかいろんなことがあると思います。そうなるといよいよロボット化とかIoTとかAIとかいろんな取組みが必要になるので、ぜひ努力してまいりますし、おっしゃるように、私どもはなるべくご指摘のとおり、いいディレクターになるように努力して、主役や演者は県民の皆さん、企業の皆さんということになるように努力してまいります。

政所委員のおっしゃったように、確かに今、人生100年時代になりかかっています、10万時間ということもございました。確かにリカレント教育というのか、特に東京なんか立地がいいですから、そういうことを私学中心にやっています。学び直しの場合として富山県は最適じゃないかというお話もありました。また、修了証を出すだけでいいんだというお話もありましたが、やる以上はそれだけじゃ済まないと思いますが、ぜひそうした問題意識を持っていきたい。最近、富山大学さんや私どもの県立大学、国際大学とか、皆さん、いろいろ課題はありながらも、やっぱり大きく改革していこうという流れになっておりますし、またそういう意味で、今度の地方大学の振興の国のプロジェクトをうまく活用すれば大きな弾みがつくと思っておりますので、これは産業界とともに頑張っていきたいと思っております。

また、宮越委員がおっしゃったように、やはりこれからは元気な企業、人が大事で、まさに部局横断でしっかり頑張ってください。

それから、イグノーベル賞の話もありましたが、いずれにしても、確かに県民の皆さん、企業の皆さんにまさに主役で頑張ってもらう必要があるので、そういう皆さんをしっかりサポートして、またすばらしい実績を上げていただいた皆様にはしっかりと顕彰する、インセンティブがあると、こういうふうになるようにしてまいります。

また、町内会に出るとポイントをつけなきゃいけないという地域社会に富山県がならないように、これは皆さんとともに頑張っていきたいと思っております。

今日はどうもありがとうございました。

#### (4) 閉会

##### 【高木部会長】

ほかにもいろいろご意見がおありかと思いますが、またお手元のご意見用紙によりご意見を追加でいただければいいと考えております。

それでは、そろそろ時間でございますので、閉会に当たり知事から一言お願いいたします。

##### 【石井知事】

今日は本当に事前に思っていた以上にご意見をたくさんいただけたと思います。文章は大分整ってきましたので、あとは実行だと思います。ぜひ県民の皆さんとともに頑張ってもらいます。よろしくお願いいたします。

##### 【高木部会長】

石井知事さん、ありがとうございました。

なお、本日の会議は活力部会といたしましては最後ということになりますので、本日の議事のうち「基本政策答申検討案(活力)」については、本活力部会として取りまとめの上、この後、総合部会、審議会に諮って最終答申の取りまとめを行っていくこととなります。

先ほど事務局からも説明がありましたように、来年1、2月に開催予定をしている総合計画審議会で答申案を審議することになりますが、この間並行して行われる県の予算編成過程などを通じて、新たな要素を追加する必要があることも考えられます。

この内容については、事務局と部会長でございます私と副部会長さんとで十分協議した上で、弾力的に修正の上、答申時には最新の内容で提出させていただきたいと考えております。どうかご容赦お願いしたいと思っております。

本日いただきましたご意見も踏まえまして、今申し上げたような修正、加筆につきましては、どうか私にご一任いただきたいと思います。

活力部会として取りまとめていきたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

##### 【高木部会長】

ありがとうございました。

委員の皆様には、最終答申案を事務局からお送りしてご確認をお願いしたいと思いますので、その際はどうかよろしくお願いいたします。

以上で本日予定の議事は終了いたしました。事務局から連絡事項等がありましたらよろしくお願いいたします。

##### 【事務局】

貴重なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

なお、お手元にご意見等の記入用紙を配付しておりますので、ご意見がございましたら、

後日、事務局のほうに郵便等でお寄せいただければというふうに思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、今後、総合部会を経まして、来年1、2月ごろには審議会を開催し、最終答申を取りまとめていただく予定としております。

以上でございます。

**【高木部会長】**

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。

長時間にわたり議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

また、本年1月以来9カ月間の3回にわたり、熱心な事前検討、そしてご議論、ご提言をいただきました。部会長として厚く御礼申し上げます。

以上で本日の会議を終了いたします。どうもありがとうございました。